

# 石川さゆりの歌声は絶唱だった 心の澱が剥ぎ落ちる歌だった

『津軽海峡・冬景色』

## 昭和歌謡 誕生物語

第8回  
文・山川智

言葉には力がある。  
石川さゆりの唄う

『津軽海峡・冬景色』には  
情景を浮かべ描く力があつた。

産を失くした女であつた。

英死にしがみついた産婦だつた。

その産が折れてしまつた。

海鳴りは女の極哀であつた。

凍えそうな鳴の飛ぶ姿は  
女の現し身そのものだつた。

此の外れの竜飛神は  
産を死なせた女の墓標だつた。

もう戻ることはできない。

純色が荒れ狂い白波を連絡船に  
叩き付ける冬の津軽海峡……  
あの世とこの世の結界だつた。

石川さゆりの歌声は  
あの世に向かう哀別に泣いていた。

新 濁ブルース「博多み  
れん」<sup>1</sup>「松島紀行」<sup>2</sup>

……皆さんも「当地ソ  
ング」という言葉をご存知だろ  
う。ご当地ソングとは最初か  
ら全国ヒットを狙わず現地在  
ターゲットに、ある程度採算  
が取れば御の字、というレ  
コード会社にとって手堅い企  
画のひとつ。石川さゆりの『津  
軽海峡・冬景色』も、当初はそ  
んなご当地ソング企画だつた。

まず『津軽海峡・冬景色』と  
いうタイトルに三木たかしが  
メロディーを付け、それが阿  
久悠に渡された。ところが、阿  
久から送られてきた歌詞を見  
た三木は、思わず「なんじゃ  
こりゃー」と喫驚したという。

それもそのはずだ。津軽の海  
の風景を歌う、当たり障りの  
ない歌詞を想像していた三木  
だが、阿久の詞は、「上野発の  
夜行列車」に始まって、津軽海  
峡の冬景色を現す言葉は「竜  
飛神」ひとつしかない。

（阿久さんともあろう人が  
……困ったものだ）  
だがしかし、詞をメロデー  
ーに合わせて口ずさんでみる  
と、もともとこの詞に自分がメ  
ロディーを付けたのでは、と  
錯覚させるほど、歌詞とメロ  
ディーがピッタリ合っている  
ではないか。今度ば、詞とメロ  
ディーのハマリ具合に驚いた  
そつだ。

阿久は1番の冒頭2行で上  
野を発った女性を夜行列車で  
青森駅に到着させ、カモメが  
凍える寒さのなか、青函連絡  
船に乗り、出航するまでをタ  
イジェストで描写。2番では  
竜飛神を見つめる女性が北海  
道出身で東京に出ていたこと、  
傷心のまま北海道へ帰る、そ  
の心情を津軽海峡の冬景色と  
ともに見事に描いていた。

阿久の詞に石川さゆりが魂  
を込めて唄い完成した『津軽  
海峡』は、彼女の15枚目のシ  
ングルとして昭和52年（1977）

7月7日）元日に発売され、70万枚  
を超える大ヒットを記録。彼  
女のスタンダードナンバーと  
してすっかり定着することに  
なる。以来、彼女はおそらくこ  
の曲を数千回、いやそれ以上  
歌っているはずだが、37年を  
経た今もなお、当時と同じキ  
ーのまま、変わらぬ声、変わら  
ぬ歌唱法で歌い続けている。  
彼女のプロ根性には恐れ入る  
ばかりだ。

歌は世につれ、世は歌につ  
れ——。名曲にはむろん作品  
力そのものが必要だが、作品  
が輝き続けるためには、その  
歌を紡ぐ歌い手たちの意識  
の高さがあればこそ、『津軽海  
峡・冬景色』は、そんなことを  
痛切に感じさせる名曲だ。■

Yoshikawa Giti  
1962年東京生まれ、テレビ制作会社、  
制作局を経てフリーランスに。  
著書に『東方神起の謎』『東方神起  
10年を振り返る』『共ニイーストプレス』、  
『ヒューマンドキュメント 幸せのまなこ』  
（リール出版）など。

また、『出陣プロデュース』作品として  
『生きる 義家弘光（ベストアップ出版）』、  
『アキハバラ』、『狂食ギョル』（共ニイースト  
プレス）などを著す。

……は、彼女の15枚目のシ  
ングルとして昭和52年（1977）

7月7日）元日に発売され、70万枚  
を超える大ヒットを記録。彼  
女のスタンダードナンバーと  
してすっかり定着することに  
なる。以来、彼女はおそらくこ  
の曲を数千回、いやそれ以上  
歌っているはずだが、37年を  
経た今もなお、当時と同じキ  
ーのまま、変わらぬ声、変わら  
ぬ歌唱法で歌い続けている。  
彼女のプロ根性には恐れ入る  
ばかりだ。

歌は世につれ、世は歌につ  
れ——。名曲にはむろん作品  
力そのものが必要だが、作品  
が輝き続けるためには、その  
歌を紡ぐ歌い手たちの意識  
の高さがあればこそ、『津軽海  
峡・冬景色』は、そんなことを  
痛切に感じさせる名曲だ。■

Yoshikawa Giti  
1962年東京生まれ、テレビ制作会社、  
制作局を経てフリーランスに。  
著書に『東方神起の謎』『東方神起  
10年を振り返る』『共ニイーストプレス』、  
『ヒューマンドキュメント 幸せのまなこ』  
（リール出版）など。

また、『出陣プロデュース』作品として  
『生きる 義家弘光（ベストアップ出版）』、  
『アキハバラ』、『狂食ギョル』（共ニイースト  
プレス）などを著す。